

タイトル	クヌギ林等を活用した天蚕(ヤマユガ)飼育	
概要	クヌギ林等を飼育林として適正に管理し、天蚕を飼育する。	
管理方法・技術的視点	<p>周囲を松林に囲まれクヌギの県有林を飼育林として利用。周辺の森林もかつて天蚕に利用されていたが、その後放置され大木となったクヌギ林を主とする雑木林となっている。これらを天蚕飼育の状況に応じて、順次伐採萌芽更新させることで飼育林を広げている。また新潟県十日町市の里山センターでは地域ブランドとしてブナ林を使ったユニークなヤマユガ飼育を試み始めている。</p> <p>クヌギの飼育林は人の背丈程度。ハウスとネットで囲うことで、天敵からヤマユガを守るようにしている。食用中のヤマユガは養蚕に比べて機敏に動きまわり、食欲も旺盛なため、葉を食べつくして樹勢が落ちないように、数や量に注意することが必要。また場合によっては休ませる年を設定する必要がある。</p> <p>最近はやまユガ特有の病気である核多角体病などの発生頻度が高まっており、課題となっている。</p>	
備考	<p>薄い緑色の光沢を持つことから「繊維のダイヤモンド」と呼ばれ、安曇野市が生産地としては有名。</p> <p>その他にも、福島県伊達市霊山天蚕の会、群馬県の飼育農家、富山県ガウンの会、新潟県十日町市里山センターなど新たに取り組み始めたところも含め、各地で飼育と活用の試みがなされている。</p>	<p>天蚕飼育林(信州大学繊維学部にて)</p> 
場所・主体	長野県安曇野市・安曇野市天蚕センター、新潟県十日町市・里山センター	
URL等		